

環境のダイバーシティ（多様性）を感じよう

<このプログラムを実施するファシリテーター（促進役）の方へ>

このプログラムは、全環境学習の導入として作成したプログラムです。

地球環境問題は、大気中の二酸化炭素や汚染物質による地球温暖化やマイクロプラスチックなどによる海洋汚染、酸性雨、生物種の絶滅などの地球規模の環境と廃棄物、公害、そして生活環境に至るまで多岐にわたり複雑に関係し合っています。

このような環境対応への課題は、各個人でも環境意識を持った行動が求められています。

このプログラムを実施する際は、参加者の発達段階に応じたプログラムに変容（テーマの設定範囲を変えるなど）させ、世代を変えて複数回、実施してみてください。また、環境問題に対する答えは一つではないため、様々な対象者（学校の授業や部活・事業者・団体・地域・サークルなど）や分野（理科・社会・美術・音楽・書道・演劇など）で実施・表現することにより、環境をテーマとした様々な見え方ができるプログラムとなっています。

■プログラムの概要

ねらい	・地球の環境は、人間のためだけにあるのではない。自らも地球環境の一部であることを意識して「生き方」を考える。 ・人間と環境の多様性とつながりを意識する。		
キーワード	全分野		
対象	小学生～一般		
時間	50分	実施場所	教室など
使用するもの	ワークシート（A3用紙や模造紙など）、 パソコン・プロジェクター・スクリーンを使った映像資料、新聞・教科書・図書などの参加者のイメージを広げることのできる資料など *あくまでも一例です。ファシリテーター（促進役）の実施方法により、必要なものをご準備して実施してください。		
全体の流れ	1. 導入 環境学習の意義、「環境」という言葉から思い起こすイメージ。 2. グループ活動 出されたイメージからグループごとにテーマを一つ選び、そのテーマについて話し合う。 3. 発表 話し合った事をストーリー化し、各グループ発表をする。 4. まとめ 今日感じたことを発表してもらい、ファシリテーターは、これから学ぶ様々な環境問題へと繋げていけるようまとめる。		

■進め方

時間 (目安)	学習内容	指導上の留意点
10分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境学習の意義について」 なぜこの学習があるのか伝える。 (学校であれば他教科とのちがいなど。) ・問いかけ 「環境」という言葉から思い浮かぶことを出し合う。 ・出されたイメージから班ごとに話し合う テーマを一つ決める。 ・グループごとに、そのテーマが起こった原因、そこから起こる課題などについて話し合い、結果を発表してもらうことを伝える。 <p>◇余裕があれば… 辞書で「環境」という意味を確認し、言葉としての定義と個々のイメージの整合性を意識させてもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分なりの向き合い方」(情報収集、処理、行動化、価値観、倫理観)によって環境問題に対する答えは一つに限らないことを伝える。 ・参加者の発想から環境の多様性を広げられるよう、ファシリテーターの固定観念に誘導しないよう注意する。 ・「環境」という言葉が表すところの多様さ、「多様さ」との関わりは「問題」をも生まれさせることを示唆する。
15分	<p><グループ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて話し合い、そのテーマが起こった原因とテーマから起こる課題などについてワークシートなどにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年なら家庭の環境、高学年なら住んでいる町の環境など、各対象の学びにあった範囲で、原因と課題などを話し合うとよい。 ・身近な空間から地球規模まで、非生物的空間、ヒト、いきものとの関わりを考え合わせるように留意する。 ・原因と課題は連鎖関係をなすことも示唆する。
15分	<p><発表></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートなどの発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのテーマが起こった原因と課題などについて、ストーリーとしての一貫性をもった発表をするよう伝える。 ・ファシリテーターは、発表を整理し「環境」の多様さや複雑さについて気づかせる。
10分	<p><まとめ></p> <p>⇒今日、感じたことの発表 ⇒今日、感じたこと学んだことの次の段階として、次に何について考えてみたいか問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境は、様々なところに隠れ、つながっていることを参加者に気づかせることが大事。 ・最後は、あえて次への問いかけで終わることにより、これから学ぶ様々な環境問題へと繋げていけるようにする。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
A3用紙または模造紙	各班分	各班のワークシートとして使用
国語辞典など関連辞典	各班分	「環境」という言葉の定義を確認する場合
パソコン	1台	参加者のイメージを広げるために必要があれば使用
プロジェクター	1台	
スクリーン	1台	
新聞記事	必要数	
教科書	必要数	
環境関連参考図書	必要数	
板橋区環境白書	必要数	

■実施にあたり留意する点

- ・このプログラムは、全ての環境学習の第一歩として始めるプログラムとしてお勧めである。
- ・あらゆる分野、対象での実施が可能である。ファシリテーター（促進役）は、各対象の年齢に合わせて、言葉の表現方法に留意する必要がある。
- ・テーマをどのように設定するかによって、問題や解決策が異なるため、ファシリテーターは、参加者にどのように伝えるか意識して行うこと。
- ・ファシリテーターは、実施する前に、社会問題になっているトピックスを収集してくること。
- ・最後のまとめは、あえて次への問いかけで終わることにより、これから学ぶ様々な環境問題へと繋げていけるようにすることが重要である。
- ・様々な分野で実施するために、環境の多様性やつながりをワークシートという形ではなく、美術や音楽、書道、演劇などの参加者の得意分野に合わせて表現しても、魅力的なプログラムとなる。